

第 2 章 鉄道交通の安全

第 1 節 鉄道交通環境の整備

種 別	(1) 鉄道施設の点検と整備 (2) 運転保安設備の整備 (3) 鉄道の地震対策の強化
実施機関	近畿運輸局

〔線路施設・信号保安設備等〕

(単位：千円)

	事 業 名	事 業 量	事 業 費
線路施設等の整備	軌 道 強 化	5,757m	506,873
	線 形	0m	0
	路 線 増 設	0m	0
	橋 り よ う 改 良	3 箇所	14,763
	駅 改 良	23 駅	5,042,671
	ト ン ネ ル 改 良	0 箇所	0
	防 災 ・ そ の 他	11 箇所	273,361
	小 計		5,837,668
運転保安設備等	自 動 閉 そ く 信 号	0 箇所	0
	C T C 化 等	4 箇所	72,108
	連 動 装 置	4 箇所	36,471
	A T S 等	1 箇所	1,500
	列 車 無 線 装 置	2 箇所	38,235
	信 号 機 改 良 等	4 箇所	2,368
	小 計		150,682
	合 計		5,988,350

* 事業量の欄に計上できないものは、事業費のみに計上している。

第3節 鉄道の安全な運行の確保

種 別	(3) 気象情報等の充実
実施機関	彦根地方気象台

〔気象情報等の充実・利用促進〕

鉄道交通に影響を及ぼす台風、大雨、竜巻等の激しい突風、地震等の自然現象について、的確な実況監視を行い、関係機関、乗務員等が必要な措置を迅速にとり得るよう、特別警報・警報・予報等を適時・適切に発表して事故の防止・軽減に努めた。また、これらの情報の内容の充実と効果的利活用の促進を図るため、「第1章 第3節 (6) 道路交通に関する情報の充実」で述べた気象観測予報体制の整備、地震の監視体制の整備、各種情報の提供、気象知識等の普及を行った。

特に、竜巻等の激しい突風による列車転覆等の被害の防止に資するため、竜巻注意情報を適時・適切に発表するとともに、分布図形式の短時間予測情報として竜巻発生確度ナウキャストを提供した。また、走行中の列車における地震発生時の転覆等の被害の防止に資するため、緊急地震速報（予報および警報）の鉄道交通における利活用の推進を図った。

第5節 救助・救急活動の充実

種 別	(3) 救助・救急活動の充実
実施機関	西日本旅客鉄道(株)京都支社

京都支社テロ対応訓練の開催について

○平成29年7月7日（金）

スケジュール

救出救護訓練 2時30分～4時00分

閉会式 4時00分～4時10分

○訓練場所 湖西線 大津京駅構内（滋賀県大津市皇子が丘二丁目8-1）

○訓練想定 走行中の列車内（乗客約100名）においてテロ事象が発生。車内ではお客様が負傷されているとの想定で、消防、警察とJR社員との連携によるテロ事象の掌握と負傷者の救出および救護訓練を実施。

○訓練開催に伴い関係機関・団体と協力